

花壇づくりのヒント 12か月

5月 簡単なバラ栽培

5月、市内の公園でもバラが咲き始め、華やかな色や香りに心が躍る季節です。園芸店やバラの展示会などに並ぶ花を見て、「今年はバラに挑戦しようかな。でも害虫、肥料、剪定、、、バラの栽培って難しそう・・・」、と思っている方も多いのでは？今回はバラ栽培の基本的な内容を簡単にご紹介します。お気に入りの花を選んで、まずは気軽にチャレンジしてみたいはいかがですか？



庄内緑地バラ園より 繊細な色のノヴァーリスという品種

1. バラの開花時期

近年販売されているバラの多くは『四季咲き』品種です。充実した株であれば5月～11月にかけて何度も繰り返し花を咲かせます。夏に剪定して少し花をお休みさせると、秋にまたきれいな花を咲かせます。

2. バラの鉢植えを入手したら

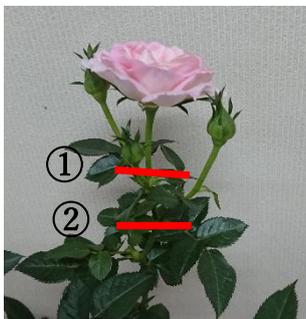
つぼみや花のついていないバラを購入したら、早目に庭に植えつけるか、一回り大きな鉢に植替えましょう。つぼみや花があるバラの場合は、花がらを摘みながら花を楽しみ、咲き終わった後に植えつけや植替えを行います。（植替えは4. で紹介します。）

3. 花がら摘み

咲き終わった花をそのままにしておくと、見苦しいだけでなくカビが発生して、病気の原因になり、種がついて株が弱ったりします。なるべくこまめに花がらを摘んであげましょう。



花びらが雨などで溶けて張りつく前に摘みましよう



【花がらの摘み方】

◆房咲き品種

- ① 咲き終わった花から順番に花首の下から摘む
- ② 房全体が咲き終わったら小葉が5枚ある大きなしっかりした葉、「5枚葉」の3～5mmぐらい上を芽の位置が上になるよう斜めに切る（※）



◆一輪咲き品種

花が終わったら、「5枚葉」の3～5mmぐらい上を芽の位置が上になるよう斜めに切る（※）

（※）切り方については「花壇づくりのヒント 3月その2 鉢植えツバキの剪定」もご参考に

～秋にキレイな花を楽しむポイント～

小葉が5枚ある大きなしっかりした葉とは？

『バラの5枚葉』

バラの葉は葉の軸を中心に小さな葉（小葉）が並んだ形をしています（羽状複葉）。花のすぐ下の葉は、小葉が3枚のものが多く、もう少し下の充実した茎からは小葉が5枚の『5枚葉』と言われる葉が出ています。

花後はこの5枚葉の上で切ると（夏剪定）、いい芽が育ちキレイな次の花を咲かせると言われています。



【バラの咲く時期について】

モッコウバラや原種に近い品種のバラには「一季咲き」のものがあり、そのような品種は春～初夏に一度だけ開花する性質なので、花後、次に開花するのは翌年になります。

4. 植替え（鉢増し）

バラの植つけ、植替えの適期は本来、冬の休眠期です。それ以外の時期に植え替える場合は根をあまり崩さないように気をつけて、一回り大きな鉢に植えます。



↑スリットのある鉢が水はけが良くおすすめ



←鉢底を見てみると、鉢底から根がはみ出してきている事が多い



↓ 上部は表面をなでるように根鉢の角を少し崩す

↑ 下部の根はなるべく触らず崩さない

土を配合する場合は
赤玉小粒7：腐葉土(堆肥)3+元肥



・元の鉢より一回り大きな鉢を用意する
(あまり大きな鉢にすると根腐れをおこす)

・鉢からそと外し、表面にコケなどがあつたら取り、鉢底石と培養土を少し入れた鉢の中央に置く

・鉢と根鉢の隙間に培養土を入れ、水をしっかりやる

5. 肥料

バラがきれいな花を咲かせるには、たくさんの栄養が必要です。ただし一度に大量の肥料を与えると根が傷んでしまいます。

- 春の開花前、▪ 夏・秋の花後、▪ 冬の休眠期、の年4回、適量追肥(*)を行い、しっかりした株を育てましょう。

(*)追肥については「花壇づくりのヒント 12 か月 1 月冬の花壇管理」をご参考に。

【追肥のタイミング】

- 3～4月：芽出し、開花のためのエネルギー補充。（粒状化成肥料がおすすめ）
- 6月の花後と9～10月の花後：開花で使ったエネルギーを補う。（粒状化成肥料または液肥がおすすめ）
- 12～1月：翌年の基礎的なエネルギーを蓄える。（油かすや骨粉のような有機質肥料を与えるならこの時期）

6. 病虫害対策

【病気】

・うどんこ病

昼夜の温度差が激しい春や秋に発生。若い枝葉や蕾が白いかびに覆われ生育が悪くなる。



・黒星病

梅雨や秋の長雨時期に発生。葉に紫黒～黒褐色の病斑が出て落葉する。



【対策】

- ・病状の出た葉を早目に取り除く
- ・茂らせ過ぎず、風通し良く管理する
- ・マルチングをして土のはね返りを防ぐ

【害虫】

・チュウレンジハバチ(①成虫②幼虫)

茎に産み付けられた卵から頭の黒い緑色の小さな幼虫がたくさん産まれ、葉を食い荒らす。



・バラゾウムシ(③成虫④産卵痕)

新芽やつぼみに産卵して穴を開ける。その後花首が折れて、新芽やつぼみがしおれて枯れてしまう。



【対策】

- ・早目に発見して捕殺する。

バラについては、また冬に『剪定』などの管理をご紹介をしていきたいと考えています。

★次回6月は『切り戻しと挿し芽』をご紹介します。

※資料は個人でのご活用に留めていただけますよう、よろしくお願ひします。